

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	大学院の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ニノヘガクエン 学校法人 二戸学園									
フリガナ大学の名称	イワテホケンイリョウダイガクダイガクイン 岩手保健医療大学大学院 (Iwate University of Health and Medical Sciences Graduate School)									
大学本部の位置	岩手県盛岡市盛岡駅西通一丁目6番30号									
大学の目的	本学の大学院は、21世紀の我が国における看護学領域の研究と多様化する高度医療ニーズに対応できる人材として、確かな医療や看護の倫理観を備え、広い視野と深い人間理解に基づき、保健、医療、福祉等の幅広い知識と看護実践力を身につけた看護専門職者を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	建学の精神である『人々の生活と健康を高め、地域社会に貢献するケア・スピリットを備えた保健医療人の育成』を基本理念とし、看護学を基盤に自ら考え、行動し、社会を切り拓く人材を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	看護学研究科 (Graduate School of Nursing Science) 看護学専攻 (Master's Program in Nursing Science) 計	年	人	年次人	人	修士 (看護学) (Master of Science in Nursing)	令和3年4月 第1年次	岩手県盛岡市盛岡駅西通一丁目6番30号		
【基礎となる学部】 看護学部看護学科 14条特例の実施										
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	該当なし									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	看護学研究科 看護学専攻	講義	演習	実験・実習	計	30 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設分	看護学研究科 看護学専攻		教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
				8人 (8)	2人 (2)	4人 (4)	2人 (2)	16人 (16)	0人 (0)	2人 (2)
	計		8人 (8)	2人 (2)	4人 (4)	2人 (2)	16人 (16)	0人 (0)	2人 (2)	
	既設分	該当なし		—	—	—	—	—	—	—
(—)				(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
計		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)		
合計			8人 (8)	2人 (2)	4人 (4)	2人 (2)	16人 (16)	0人 (0)	2人 (2)	
教員以外の職員の概要	職種			専任		兼任		計		
	事務職員			15人 (15)	0人 (0)		15人 (15)		大学全体	
	技術職員			1人 (1)	0人 (0)		1人 (1)			
	図書館専門職員			1人 (1)	0人 (0)		1人 (1)			
	その他の職員			0人 (0)	0人 (0)		0人 (0)			
計			17人 (17)	0人 (0)		17人 (17)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積 4,331.48㎡ 期間 25年				
	校 舎 敷 地	1,952.12 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	1,952.12 ㎡					
	運 動 場 用 地	1,320.93 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	1,320.93 ㎡					
	小 計	3,273.05 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	3,273.05 ㎡					
	そ の 他	1,058.43 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	1,058.43 ㎡					
合 計	4,331.48 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	4,331.48 ㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
		5,122.12 ㎡ (5,122.12 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	5,122.12 ㎡ (5,122.12 ㎡)					
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	6 室	9 室	3 室	1 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 看護学研究科 看護学専攻		室 数 24 室		大学全体				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能のため大学全体の数		
	看護学研究科 看護学専攻	7,800〔595〕 (7,800〔595〕)	24〔0〕 (24〔0〕)	6〔6〕 (6〔6〕)	94 (94)	5,258 (5,258)	19 (19)			
	計	7,800〔595〕 (7,800〔595〕)	24〔0〕 (24〔0〕)	6〔6〕 (6〔6〕)	94 (94)	5,258 (5,258)	19 (19)			
図 書 館		面積		閲覧座席数	取 納 可 能 冊 数		大学全体			
		327.24 ㎡		40	15,000					
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体			
		724.50㎡		-						
経 費 積 立 方 法 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	学部との合計
		教員1人当り研究費等		400千円	400千円	-	-	-	-	
		共同研究費等		-	-	-	-	-	-	
		図書購入費	600千円	400千円	-	-	-	-	-	
	設備購入費	2,469千円	-	-	-	-	-	-	-	図書には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む。
学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		800千円	550千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、手数料収入等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	岩手保健医療大学								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	看護学部看護学科	4 年	80 人	- 人	320 人	学士(看護学)	0.92 倍	平成 29年度	岩手県盛岡市盛岡 駅西通一丁目6番30 号	
附属施設の概要		該当なし								

教育課程等の概要																	
(看護学研究科看護学専攻 (M))																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	看護理論特論	1前		2		○			2						オムニバス		
	看護研究方法特論	1前	2			○			1								
	臨床倫理特論	1後	2			○			2		1				オムニバス・共同 (一部)		
	多職種連携特論	1後	2			○			1		1				オムニバス・共同 (一部)		
	統計学特論	1前		2		○									兼1		
	質的研究方法特論	1前		2		○					1						
	医療社会学特論	1後		2		○					1						
	フィジカルアセスメント特論	1前		2		○			2						オムニバス		
	コンサルテーション特論	1後		2		○			1								
	災害看護特論	1後		2		○			1								
	看護学教育特論	1後	2			○			2	1	1				オムニバス		
小計 (11科目)		—	8	14	0	—			7	1	2			兼1			
専門科目	基礎・地域連携看護学領域	基礎看護学特論 I	1前		2		○			1							
		基礎看護学特論 II	1後		2		○			1							
		基礎看護学演習 I	1前		2			○		1		1				オムニバス・共同 (一部)	
		基礎看護学演習 II	1後		2			○		1							
	地域看護学領域	地域看護学特論 I	1前		2		○			1							
		地域看護学特論 II	1後		2		○			1							
		地域看護学演習 I	1前		2			○		1							
		地域看護学演習 II	1後		2			○		1							
	臨床・応用看護学領域	老年看護学	老年看護学特論 I	1前		2		○			1						
			老年看護学特論 II	1後		2		○			1						
			老年看護学演習 I	1前		2			○		1	1				オムニバス・共同 (一部)	
			老年看護学演習 II	1後		2			○		1	1				共同	
		母性看護学	母性看護学特論 I	1前		2		○			1						
			母性看護学特論 II	1後		2		○			1						
			母性看護学演習 I	1前		2			○		1			2			共同
			母性看護学演習 II	1後		2			○		1			2			共同
小児看護学	小児看護学特論 I	1前		2		○			1								
	小児看護学特論 II	1後		2		○			1								
	小児看護学演習 I	1前		2			○		1		1				オムニバス・共同 (一部)		
	小児看護学演習 II	1後		2			○		1		1				オムニバス・共同 (一部)		
精神看護学	精神看護学特論 I	1前		2		○			1								
	精神看護学特論 II	1後		2		○			1								
	精神看護学演習 I	1前		2			○		1		1				オムニバス		
	精神看護学演習 II	1後		2			○		1						兼1 オムニバス・共同 (一部)		
看護管理学領域	看護管理学特論 I (看護部管理論)	1前		2		○			1								
	看護管理学特論 II (看護組織調整論)	1前		2		○			1								
	看護管理学特論 III (看護施設管理論)	1前		2		○			1								
	看護管理学演習	1後		2			○		1	1					オムニバス・共同 (一部)		
小計 (28科目)		—		56		—			7	2	3	2					
研究科目	看護学特別研究	2通	8				○		7	2	4	2					
	小計 (1科目)		—	8	0	0	—		7	2	4	2					
合計 (40科目)			—	16	70	0	—		8	2	4	2		兼2			
学位又は称号		修士 (看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係)									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
30単位以上の修得を修了要件とし、以下の条件を満たすこと。 共通科目から必修8単位、選択6単位以上、専門科目から8単位以上、研究科目8単位を修得し、修士論文の審査及び最終試験 (口頭試験) に合格しなければならない。専門科目は各自の専門研究領域の「特論 I・II」及び「演習 I・II」各2単位を含む8単位を修得すること。								1 学年の学期区分			2 学期						
								1 学期の授業期間			15 週						
								1 時限の授業時間			90 分						



教育課程等の概要															
(看護学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎科目（総合人間科学）	探求の基礎	1前	2			○			1						
	英語Ⅰ	1後	2			○								兼1	
	英語Ⅱ	2前	2			○								兼1	
	医療英語	4後		1			○							兼1	
	情報処理	1前	2				○							兼1	
	調査と統計	3後	2			○								兼1	
	基礎ゼミナール	1通	2				○		7	3	5	7		兼2 共同	
	健康とスポーツ	2通		2				○						兼1 ※講義15h含む	
	自己・他者の理解	対人コミュニケーション	1前	1			○			1					兼1 オムニバス
		人間関係	1後	1				○		1					
		人間と心理	1前		1		○								兼1
		発達と教育	1後		1		○								兼1
		人間の生涯発達	1後	2			○			3	1	1			オムニバス
		人間の生と死	2後	1			○			1					オムニバス
		東アジアの文化	4後		1		○			1					
		西ヨーロッパの文化	4後		1		○			1					
	生活・社会の理解	地域の文化	1前	1			○					1			
		暮らしの科学	1前	1				○							兼2 オムニバス
		人間と文化	1後	1			○					1			
		家族という社会	2前	1			○					1			
		憲法	2前		2		○								兼1
		社会と福祉	3前	1			○					1			
小計（22科目）	—	22	9	0	—	—	—	9	3	5	7	0	兼8		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門基礎科目（看護とその対象理解ベータシク）	自然の理・環境の理解 自然科学	1前	1			○									兼1		
	環境生態学	1前		1		○									兼1		
	健康の理解	生化学	1前	1			○									兼1	
		形態機能学	1前	2				○								兼2	
		病態生理学	1後	2			○									兼1	
		疾病治療論Ⅰ	1後	2			○									兼3	オムニバス
		疾病治療論Ⅱ	2前	2			○									兼7	オムニバス
		疾病治療論Ⅲ	2後	1			○									兼3	オムニバス
		ヘルスアセスメント	1前	1				○		1	1		3				共同
		メンタルヘルス論	1後		1		○			1							
		臨床栄養学	2前	1				○								兼1	
	臨床薬理学	2後	1				○								兼1		
	保健と環境（被災地支援に向けて）	ボランティア論	1後		1		○						1				
		感染症学	1後	2			○									兼1	
		ヘルスプロモーション論	3前	2			○			1		1					オムニバス
		チーム医療論	2後	2			○					1					
		医療経済学	4後		2		○									兼1	
		公衆衛生学・疫学	3前	2			○									兼1	
		災害援助論	3前	1			○			1							
		保健医療福祉行政論	4前	2			○			1		1					オムニバス
小計（20科目）	—	25	5	0	—	—	—	4	1	2	3	0	兼19				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目（看護の理解）	基盤の理解	看護学概論	1前	2			○			1						オムニバス ・共同(一部) 共同
		早期体験実習	1前	1					○	3	3	4	5	5		
		基礎看護援助論	1前	2			○			1	1					
		生活援助技術論	1後	2				○		1	1		3			
		看護理論	1後	1			○			1						
		生活援助実習	1後	2					○	3	3	3	5	5		
		看護倫理	2前	1				○		2		1				
		家族看護論	2後	1			○			1						
	実践の理解	療養援助技術論	2前	2				○		1	1		3			共同
		看護過程論	2前	1				○		2	2	2	7			共同
		療養援助実習Ⅰ	2前	2					○	1	3	2	4	5		
		療養援助実習Ⅱ	2後	2					○	1	3	2	3	6		
		成人看護学概論	1後	1			○				1					オムニバス ・共同(一部)
		成人看護援助論	2前	1			○				1	1	1			
		生活習慣看護論	2後	1			○				1					
		慢性期看護技術論	3前	1				○			1	1				共同
		成人看護学実習Ⅰ	3前	2					○		1		1	2		
		急性期看護技術論	3後	1				○		1	1	1	1			共同
		がん看護論	3前	1			○					1				
		成人看護学実習Ⅱ	3後	2					○		1	1	1	2		
		老年看護学概論	1後	1			○			1						オムニバス ・共同(一部)
		老年看護援助論	2前	2			○			1	1					共同
		老年看護技術論	2後	1				○		1	1					
		老年看護学実習	3前	2					○	1	1			1		
		母性看護学概論	2前	1			○			1						
		母性看護援助論	2後	2			○			1			2			オムニバス
		母性看護技術論	3前	1				○		1			2			共同
		母性看護学実習	3通	2					○	1			2			
		小児看護学概論	2前	1			○			1						
		小児看護援助論	2後	2			○			2		1	2			オムニバス ・共同(一部)
		小児看護技術論	3前	1				○		2		1	1			共同
		小児看護学実習	3通	2					○	2		1	2	1		
		精神看護学概論	2前	1			○			1						
		精神看護援助論	2後	2			○					1			兼1	オムニバス
		精神看護技術論	3前	1				○		1		1				共同
		精神看護学実習	3後	2					○	1		1		1		
小計（36科目）	—	—	53	0	0	—	—	—	9	3	4	7	9	兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合科目 (看護の統合的理解)	在宅看護の理解	在宅看護学概論	3前	1			○			2						オムニバス
		在宅看護援助論	3後	1			○			2						オムニバス
		保健医療福祉連携論	3後	1				○		1						
		在宅看護技術論	4前	1				○		1						
		在宅看護学実習	4前	2					○	1				2		
	地域・公衆衛生看護の公理解	地域看護学概論	3後	1			○			1						オムニバス
		地域看護援助論	3後	1			○			1		1				オムニバス
		公衆衛生看護技術論	4前		2			○		1		1				共同
		公衆衛生看護管理論	4前		2		○			1		1				オムニバス・共同(一部)
		地域看護学実習	4前	1					○	1		1		1		
	看護の総合的理解	リハビリテーション看護論	3前		1		○									兼1
		放射線看護論	3後		1		○									兼2
		セクシャルヘルスアセスメント	3後		1		○			1						オムニバス
		エンドオブライフケア論	3後	1			○			2		1				オムニバス
		災害看護論	4前	1			○			1						兼1
感染看護論		4前		1		○									兼1	
看護教育論		4前		1		○			1						兼1	
看護管理論		4前	1			○				1					オムニバス	
救急看護論		4後		1		○				2					オムニバス	
国際看護論		4後		1		○					1				兼1	
臨床倫理		4後	1				○		2						オムニバス・共同(一部)	
総合実習		4後	2					○	8	3	4	7	9		オムニバス・共同(一部)	
看護研究方法論		3後	1				○		1						オムニバス・共同(一部)	
卒業研究ゼミナール		4通	4					○	8	3	5	7			兼2 共同	
小計 (25科目)	—	20	15	0	—	—	—	9	3	5	7	9	兼7			
合計 (103科目)		—	120	29	0	—	—	—	10	3	5	7	9	兼30		
学位又は称号		学士 (看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (看護学関係)									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p>「基礎科目」で必修22単位、選択1単位以上、「専門基礎科目」で必修25単位、選択1単位以上、「専門科目」で必修53単位、「統合科目」で必修20単位、選択3単位以上を修得し、合計125単位以上を修得すること。</p> <p>保健師課程選択学生については、必修科目の他に保健師選択科目「公衆衛生看護技術論」「公衆衛生看護管理論」「公衆衛生看護学実習」「国際看護論」の9単位を修得する必要がある。</p> <p>養護教諭二種免許取得申請希望学生は、保健師国家試験の受験に必要な科目に加えて「健康とスポーツ」「憲法」の4単位を修得する必要がある。</p> <p>履修科目の登録の上限は年間41単位である。</p>								1学年の学期区分			2学期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					



授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻 (M) )			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護理論特論	<p>看護実践で行われている看護援助方法の主要な理論的背景について学ぶ。看護実践の基盤となる看護論としてナイチンゲール看護論、ヘンダーソン看護論、ベナー看護論、オレム看護論、ロイ看護論、M. ニューマン看護論、ワトソン看護論について理解と考察を深め、看護実践を充実し発展させる方法を学修する。また、各自の看護体験と看護理論との関係について考察し、看護理論を活用して看護実践を展開する方法を探究する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 菊池和子/8回) 看護実践で行われている看護援助方法の主要な看護理論に関する文献を読み、各自の看護体験を看護理論に基づき整理し、看護実践を充実し発展させる方法を身につける。</p> <p>(6 岡田実/7回) 修論のテーマに関連する理論や概念を選定する。それらに関する著作に基づいて自身のテーマに引きつけたプレゼンテーションを行い、相互のディスカッションを通じて理論や概念を厳密に理解しながら共有する。</p>	オムニバス方式
	看護研究方法特論	<p>看護学における科学的な研究のプロセス（看護における研究の役割、科学的アプローチ、理論やモデルに基づく研究疑問の立て方など）を理解し、研究用語、研究デザインおよび研究方法についての理解を深める。また、論文の批判的検討能力を高めるとともに、看護実践の場への研究の応用能力の基礎を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	臨床倫理特論	<p>臨床現場で看護師をはじめとして医療従事者が患者本人や家族と向き合い・寄り添いながら医療・ケアを進める中で生じる問題に、多職種が協働して対応する際の要となる「どうしたらよいか」を考える営みを臨床倫理という。本講では看護における倫理的な概念の振り返りを行う。履修者が臨床で遭遇した事例を出し合い、看護学領域・人文社会系領域の教員がスーパーバイズする事例検討を行う。モデル事例を用いて倫理的課題の検討方法について理論的・実践的な理解を深める。多職種の中で臨床倫理を進める能力を修得する。さらに事例検討から得られた臨床倫理能力を発展させる方法についても学修する。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 清水哲郎/2回) 医療・ケアを進める中で生じる問題、特に本人・家族の意思決定支援について学修するとともに、事例検討の方法について理論的、実践的に理解を深める。</p> <p>(2 濱中喜代/3回) 看護における倫理的な概念のうちケアリング、コンパッション、アドボカシー、パターナリズムについて学修するとともに臨床倫理能力を発展させる方法(自己研鑽)について理解を深める。</p> <p>(11 石井真紀子/1回) 看護における倫理的な概念のうちインフォームドコンセント、守秘義務について学修する。</p> <p>(1 清水哲郎・2 濱中喜代/3回) (共同) 臨床倫理の守備範囲と目指すものを学修するとともに、集団で臨床倫理能力を発展させる方法の1つであるファシリテーションについて理解を深める。</p> <p>(2 濱中喜代・11 石井真紀子/6回) (共同) 医療・ケアを進める中で生じる問題、特に倫理的課題について、臨床で遭遇した事例の振り返りから理論的・実践的な理解を深め、さらに事例検討からチーム連携、多職種連携において臨床倫理を進める能力を修得する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	多職種連携特論	<p>地域包括ケアが研究上の論点としても、ケアの実践上のテーマとしても、さらには政策においても注目される今日にあって、多職種連携について考えることは避けられない。臨床や在宅など多様なケアの現場において、患者と家族のQOLを維持、向上させるためには多種多様な専門職の連携が求められる。そこで本講義では、多職種連携を理論的に考察する視点を学び、多職種連携に関する我が国の現状と課題の理解を進めていく。内容としては、チームケアや多職種連携を考えるための基礎的理論の検討や、チームケア、地域内連携の事例検討によって理解を深める。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(8 鈴木るり子/7回) 地域における臨床現場での多職種連携のあり方について、事例等を用いながら検討し、理解を深める。</p> <p>(13 相澤出/6回) 専門職論、チーム医療に関する社会学的研究、組織論など、多職種の連携に関わる理論的な知見について講義を行い、理解を深める。</p> <p>(8 鈴木るり子・13 相澤出/2回) (共同) 講義の導入およびふりかえりを行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	統計学特論	保健医療の場や看護研究において必要となる推測統計の基礎を身につける。具体的には、調査手法の種類、推定と検定の考え方を学修し、データの性質に応じた統計手法の選択・分析する能力の修得を目標とする。講義形式ではあるが、調査法選択・分析を体験しながら、調査手法と統計知識の定着を図る。	
	質的研究方法特論	広く質的研究法とされるさまざまな方法について、専門的な解説・紹介を行う。人間と社会をめぐる事象における個別具体的な側面に着目し、そこにアプローチしようとする方法はさまざまある。本科目では、ある地域、ある人の人生の個性ある歴史的側面に注目する方法や、ある文化を共有した人々、あるいはある特定の個人の生活世界にアプローチする方法に立ち入り、その思想的背景などもふまえながら解説を行う。	
	医療社会学特論	医療社会学の基礎について学修する。医療社会学の基礎を築いたのが、T. パーソンズである。パーソンズは20世紀における社会学の巨人であるが、彼は医療社会学の先駆者でもあった。彼が提示した議論は、後にはさまざまな研究者から批判を受けるところもあるが、いずれ肯定的にであれ、否定的にであれ、避けては通れない存在である。そこでパーソンズの議論（さらにはそれに対する批判）を学ぶことを通じて、医療社会学の基礎に関する理解を深める。	
	フィジカルアセスメント特論	健康問題をもった対象者の身体状況をアセスメントし、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を修得する。フィジカルアセスメントの目的・方法・必要性についての理解を基盤として、フィジカルアセスメントを活用した適切な情報を収集・分析し包括的なアセスメントから特定の問題を明確化できるコミュニケーション技術を身につけ、臨床判断を行う基礎的能力を養う。 (オムニバス方式/全15回)  (5 菊池和子/13回) フィジカルアセスメントの意義、診査方法、頭部、胸部、腹部、骨、筋肉系、神経系、内科疾患、外科疾患が疑われる際のアセスメントについて講義・演習を行う。  (4 江守陽子/2回) 女性生殖器と性機能に関連したアセスメントについて講義・演習を行う。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	コンサルテーション特論	多様な臨床で展開されている高度実践看護師などによるコンサルテーションの活動から、コンサルタントに必要な専門的な役割とその能力を学修し、看護実践家として自身の所属する臨床現場において適応可能なコンサルタント的な役割を検討する。関連して、組織全体を見通すことによって、学習し変革を遂げる組織であるための問題と課題を検討し、組織における自身の役割を検討する。	
	災害看護特論	東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県をフィールドに、各国で多発する自然災害及び人為的災害（放射線等）に対して、災害時の復旧・復興期に対応する高度な専門知識、技術の理解を深め、その状況にふさわしい倫理観を身に付ける。 また、国内外の災害現場における専門職者の講義を取り入れ、多様な災害現場における看護職の活動と災害に対する予防・減災・復旧・復興に対する看護活動について探究する。	
	看護学教育特論	看護職における看護基礎教育と継続教育の現状と課題について理解を深め、看護職への教育のあり方について探求する。具体的には、日本の看護教育制度の特徴、看護教育カリキュラムの変遷、と課題、生涯教育の観点から、成人学習に関する教育方法の基礎的理論を学ぶとともに、看護基礎教育および看護継続教育における教育プログラムの作成・教育内容・教材開発・教育評価の方法や留意点について学修する。 さらに、保健師助産師看護師学校養成所指定規則における教育の基本的な方向性、わが国の医療政策と看護教育課程に及ぼす影響、これからの看護の機能と教育のあり方などについても考察する。 (オムニバス方式/全15回)  (2 濱中喜代/5回) 看護職への教育のあり方について、生涯教育の観点から、成人学習に関する教育方法の理論、看護基礎教育および看護継続教育における教育プログラムの作成・教育内容・教材開発について教授する。また、臨床実習指導のあり方について教授する。  (4 江守陽子/3回) 教育プログラムの評価の方法や留意点について教授する。さらに、保健師助産師看護師学校養成所指定規則における教育の方向性、医療政策が看護教育に及ぼす影響、これからの看護の機能や教育のあり方について、討議により各自の教育観を形成する。  (10 土田幸子/4回) 看護職に関係する看護基礎教育と継続教育について、わが国の学校教育制度との関連、看護教育の歴史、現状と課題について解説する。さらに、看護教育における学習指導の方法、授業の展開方法についても教授する。  (11 石井真紀子/3回) 成人学習に関する教育方法の理論、とりわけ成人学習者の特徴と学習理論、看護基礎教育および看護継続教育における学内演習や看護技術教育の作成・教育内容・教材開発・教育評価の方法や留意点について教授する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 基礎・地域連携看護学領域	基礎看護学特論Ⅰ (看護援助学特論)	看護活動の場で実践されている看護援助の理論的背景について、主に中範囲理論としてペプロウ看護論、トラベルビー看護論、ストレス・コーピング理論、危機理論、ボディーイメージ・自己概念に関する理論、喪失・悲嘆に関する理論やリフレクションに関する理論を学び、看護実践への活用について学修する。自己の看護実践を理論と統合し、理論を活用して看護実践を展開する能力を養う。	
	基礎看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	看護活動の場で実践されている看護援助技術について快適な環境をつくる技術、活動・運動を支援する技術、身体を清潔に保つための技術、食事・栄養摂取に関する技術、薬物療法に関する技術、健康学習を支援する技術や関心のある看護援助技術について文献検討及び根拠となる理論から分析・考察する。さらに根拠に基づく看護援助技術を提供するための方法を探究する。	
	基礎看護学演習Ⅰ	文献検索に必要な知識と技術と共に文献のクリティークを行う能力を養う。看護の対象者へ提供されている看護実践で行われている看護援助及び「看護理論特論」、「基礎看護学特論Ⅰ」、「基礎看護学特論Ⅱ」で学修する内容と関連する文献について量的研究、質的研究それぞれについてクリティークを行い研究成果と課題を考察する。 (オムニバス方式/全15回)  (5 菊池和子/7回) 看護の対象者へ提供されている看護実践で行われている看護援助及び「看護理論特論」、「基礎看護学特論Ⅰ」、「基礎看護学特論Ⅱ」で学んだ内容と関連する量的研究についてクリティークを行い研究成果と課題を考察する。  (5 菊池和子・11 石井真紀子/8回) (共同) 看護の対象者へ提供されている看護実践で行われている看護援助に関連する質的研究についてクリティークを行い研究成果と課題を考察する。	オムニバス方式・共同 (一部)
	基礎看護学演習Ⅱ	基礎看護学演習Ⅰで得られた研究成果と課題の分析から、自己の関心のある看護援助について文献のクリティークを行い研究成果や課題を考察し、自己の研究課題を明確化する。「看護研究方法特論」の学修を活用し、文献検討から研究課題を解くための研究方法を検討する。研究課題に即した研究デザインを検討し、研究計画書の作成を行う。	
	地域看護学特論Ⅰ (看護援助学特論)	地域社会で療養生活を営んでいる様々な対象者に、看護者として必要な知識・技術・倫理観について考察する。また、国内外の在宅看護の実践について分析し、我が国における新たな在宅看護の展開について探求する。	
	地域看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	地域や集団を単位とした地域ケアシステム構築に係る既存の概念・理論について理解を深める。また、地域診断を基に地域住民の個別の健康・生活課題を地域全体の健康・生活課題へと発展させ、社会資源の活用と開発、施策化について考察する。これらを通して地域ケアシステムについて探求する。	
	地域看護学演習Ⅰ	様々なライフサイクルにある療養者をもつ健康問題や環境に対してアセスメントする能力を養う。また、療養者や家族の強みを引き出すケアマネジメント能力と看護上生じる倫理的問題について検討・考察する能力を養う。これらの過程を通して研究課題の明確化を図る。	
	地域看護学演習Ⅱ	自己の研究課題に焦点をあて、その研究の課題を解明するための理論的枠組みについて方法論の正当性や実現可能性について検討する。課題に即した研究デザイン、研究計画を採用する過程を通して自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
臨床・応用看護学領域 専門科目	老年看護学特論Ⅰ (看護援助学特論)	高齢期にある人々の健康維持・増進、疾病予防について全人的に課題を把握し分析する。その為に高齢者ケアに応用可能な理論の理解を深め、実践における応用可能性を探求する。さらに、生活習慣病やストレス等に関連する健康問題に着目し、終末期を含めたQOLの維持向上を目指した看護介入方法とその評価方法を探求する。	
	老年看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	認知症の病態生理、症状の特徴、診断および治療方法を最新の知見に基づき理解する。其のうえで、認知症による身体的・心理的・社会経済的影響をアセスメントし、認知症者およびその家族の健康課題や倫理的課題について分析し考察する。さらに、Dementia ケア理論について理解し、認知症者の生活や活動の在り方および療養環境の整備などから生活の質の向上を目指した看護方法の開発を探求する。	
	老年看護学演習Ⅰ	各自が興味を持っているテーマについて文献検討を行い、関心領域の研究の課題を明らかにする。さらに最新の研究知見から研究方法について理解を深める。それらを統合して研究計画書を作成する能力を養う。 (オムニバス方式/全15回)  (3 勝野とわ子/2回) 関心領域の文献を批判的に査定するために、文献を通してクリテイク方法の理解を深め、各自の研究課題を導くとともに課題解決を可能とする研究方法を理解する。  (9 木内千晶/2回) 研究課題を導くための文献検索の方法を理解する。さらに、研究計画書の構成要素について理解を深め、各自が取り組む研究について研究計画書を作成する基礎的能力を養う。  (3 勝野とわ子・9 木内千晶/11回) (共同) 文献検討から研究計画書を作成する能力を養う。	オムニバス方式・共同 (一部)
	老年看護学演習Ⅱ	認知症に関する(または、各自が興味を持っている)テーマに基づき、医療機関または高齢者施設などで演習をおこない、パイロットスタディを実施する。収集したデータ分析の演習を通して、対象としている現象の理解を深め、研究計画書および研究倫理申請書を作成する能力を養う。	共同
	母性看護学特論Ⅰ (看護援助学特論)	思春期から成熟期、更年期、老年期へと変化する女性の心理的、身体的、社会的な特徴について、国内外の文献や事例をもとに、整理し考察する。さらに、現代社会に生きる女性と家族の健康課題、疾病の予防、ライフステージ各段階のヘルスケアについて、それらを解決・評価する方法や理論を学修する。	
	母性看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	家族や社会における母子の心理的、身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護職の活動について文献や事例を通して分析し、アセスメントするための能力を養う。 さらに、家族、社会集団、および国家における母子保健の位置付け、取り組み、保健活動および我が国の母子保健法等の法律に裏付けられた国、都道府県、市町村レベルの支援や保健サービスの特徴について学修を進める。また、母子保健活動の変遷、地域(国外も含む)による差異について考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
臨床・応用看護学領域 専門科目	母性看護学演習Ⅰ	思春期から成熟期、更年期、老年期へと変化する健康リスクの高い女性あるいは健康問題を抱えた女性について、国内外の文献や事例を分析することにより、より高度な看護活動の方策について考察を深める。また、科学的思考を実践に生かすために、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について学修する。それによって、母性看護学領域の看護実践研究の基礎的能力を養う。	共同
	母性看護学演習Ⅱ	周産期および女性の生涯を通じて、実践科学としての科学的根拠に基づいたケアを提供する方法を学修する。さらに、関連領域の最新の研究内容および看護実践等の分析、批判的評価を通して、自らの研究テーマを導き出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することによって、自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。	共同
	小児看護学特論Ⅰ (看護援助学特論)	乳児期から思春期までの発達理論に基づいた対象の理解のうえで、心理的、身体的、社会的な特徴とその支援方法について、国内外の文献や事例を下に、整理し考察する。さらに、現代社会に生きる小児とその家族の健康課題、疾病の予防、ライフステージ各段階のヘルスケアについて、それらを解決・評価する方法や理論を学修する。	
	小児看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	小児や家族を取り巻く社会環境・状況を踏まえ、心理的・身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護活動について文献や事例を通して分析し、アセスメントするための能力を養う。また小児と家族とのコミュニケーションスキルおよび多(他)職種連携と協働について学修を進める。さらにヘルスプロモーションに向けての健康教育について考察する。	
	小児看護学演習Ⅰ	<p>新生児期から思春期までの健康リスクの高い小児あるいは健康問題を抱えた小児について、国内外の文献や事例分析およびフィールドワークを通して、より高度な看護活動の方策について考察を深める。また、科学的思考を実践に生かすために、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について学修する。それによって、小児看護学領域の看護実践研究の基礎的能力を養う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 濱中喜代/6回) 幼児期後期から思春期までの援助理論と実践について文献クリティックを行う。また難病のこどもキャンプのフィールドワークに参加し、より高度な看護活動の方策について考察を深める。それによって、小児看護学領域の看護実践研究の基礎的能力を養う。</p> <p>(14 下野純平/5回) 新生児期から幼児前期までの援助理論と実践について文献クリティックを基に指導する。さらに事例検討を進め高度な看護活動の方策について考察を深める。</p> <p>(2 濱中喜代・14 下野純平/4回) (共同) 小児と家族の最善の利益にかなう看護について関連論文・研究から考察を深め、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について学修する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	臨床・応用看護学領域 小児看護学演習Ⅱ	<p>小児とその家族への援助として、実践科学としての科学的根拠に基づいたケアを提供する方法を学修する。さらに、関連領域の最新の研究内容および看護実践等の分析、批判的評価を通して、自らの研究テーマを導き出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することによって、自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 濱中喜代/6回) 事例検討および文献クリティークをとおして小児看護関連の看護実践の分析・評価について学修するとともに、小児看護学領域の研究倫理について理解を深め、自らの研究テーマの導き出し、研究計画(案)の作成を行う。</p> <p>(2 濱中喜代・14 下野純平/9回) (共同) 小児看護学に関する研究の動向と課題を学修し、研究課題の明確化に向けた国内外の文献レビューおよび小児看護関連の最新の研究内容の分析、クリティークから自らの研究テーマを導き出す。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	精神看護学特論Ⅰ (看護援助学特論)	精神看護学の成り立ちと発展を理解するために、精神疾患と精神医療の歴史を世界的な動きを背景に日本が辿った歴史の変遷を学修しながら、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築という現在の精神医療政策に至るプロセスを学修する。	
	精神看護学特論Ⅱ (アセスメント・実践論)	精神疾患に対する多職種アプローチを可能にする各種の介入モデル(生物学的モデル・精神力動モデル・認知行動モデル・社会モデル)を学修する。関連して、精神医療保健福祉の領域において、各種の事例が地域への移行と定着を遂げることに効果のある多職種協働によるチームアプローチを可能にする理論と実践を学修する。	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 臨床・応用看護学領域	精神看護学演習Ⅰ	<p>ACTや精神科に特化した訪問看護活動などのアウトリーチ方式による先進的な看護実践、および臨床現場が抱える倫理的諸問題を学修しながら、地域包括ケアに基づく地域移行を円滑に実施する方策を検討する。関連して、精神科救急・急性期治療と看護の現況を明らかにしながら、急性期像を複雑にしている自閉症スペクトラムを抱える対象への支援策を、個・家族・地域社会の広がりに沿って検討する。 (オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 岡田実／12回) スーパー救急に代表される精神科救急・急性期治療と看護の歴史の変遷と現状及び実態を理解し、今後、期待される精神科救急・急性期看護の理論と実践を展望すると同時に、現在の問題と課題を明らかにする。</p> <p>(12 長南幸恵／3回) 精神科救急・急性期治療病棟への入院対象者としてまれではなく、なってきた自閉症スペクトラム児への急性期対応、及び入院治療中に求められる家族への治療的介入と事例に応じた社会資源の適用を検討する。</p>	オムニバス方式
	精神看護学演習Ⅱ	<p>事例研究や症例研究をまとめ記述する方法を学修し、その方法に基づいて各自が抱えている事例をレポートし、各事例が抱える問題の解決策を互いに検討しながら、より効果的な介入策を実施する具体策を組み立てる。関連して、精神医療における専門多職種による事例研究や症例研究に学びながら、チームアプローチの在り方を学修する。 (オムニバス方式／全15回)</p> <p>(6 岡田実／8回) 多職種との連携に効果的に寄与できる精神科臨床報告の仕方と症例報告の記載方法を学ぶと共に、事例検討会における望ましいディスカッション方法とファシリテートの仕方を検討し、多職種連携を視野に入れた看護実践への活用を学修する。</p> <p>(1 川添郁夫／5回) 精神科臨床の急性期病棟あるいは児童思春期病棟に入院する患児に関する症例報告の仕方、及びそのために必要な文献検討の方法、教育・家庭・社会資源に貢献できる望ましい症例報告の仕方を学修する。</p> <p>(6 岡田実・1 川添郁夫／2回) (共同) 担当している対象の事例報告をスライドでプレゼンテーションし、その後の意見交換を反映した修正版を仕上げる。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 看護管理学領域	看護管理学特論Ⅰ (看護部署管理論)	<p>認定看護管理者教育課程ファーストレベルで求められる看護管理者に必要とされる、基本的な知識・技術・態度と看護の組織運営について、病棟・外来等の「部署管理」の観点を中心に学びつつ、看護の利用者と直接に関わる看護師長職・師長補佐職の管理対応を確認しつつ、さらに所属看護師等の相談への応需についても学修する。加えて、フローレンス・ナイチンゲールの著作の中から「看護管理」に該当する部分等を資料として、看護管理の歴史的展開についても学修する。</p>	
	看護管理学特論Ⅱ (看護組織調整論)	<p>認定看護管理者教育課程セカンドレベルで求められる看護管理者に必要とされる、部署を超えた業務(各種委員会活動・実習校との調整など)における組織調整を中心に学修する。そして、実際の看護次長職・教育師長職が行っている部署を超えた組織調整を確認しつつ、その意思疎通・意見集約に必要な知識・技術・態度を広範に学修する。</p>	
	看護管理学特論Ⅲ (看護施設管理論)	<p>認定看護管理者教育課程サードレベルで求められる看護管理者に必要とされる、自施設が地域社会から求められているヘルスケアサービスを正しく理解し、それを看護部の理念や年度計画に反映させる過程を学修する。そして、その理念や年度計画を具現化するための看護組織の構築と運営についてと施設の経営参画についても学修する。加えて、所属施設がある都道府県の保健福祉看護政策の中から履修生が重要と考える政策について、厚生労働省等から出されている通知類と対照させながら、その施策動向の理解を進めると同時に、看護部として果たせる役割等についても学修する。</p>	
	看護管理学演習	<p>看護管理特論(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)の学修の中から、履修生の実際に即したレベルでの看護管理課題を見出し、その改善計画の立案を、下記①～⑥に基づいて行う。①資料・文献類のクリティーク、②組織分析と計画策定の妥当性。③動機や目的の根拠となるものの客観性、④方法と期待される成果の現実性、⑤改善計画案の文章とし完成度と目的との整合性、⑥パワーポイント等を用いた理解しやすいプレゼンテーションの実施。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 伊藤收/10回)            看護管理者として、病棟・外来等の部署(業務管理・安全管理・人事管理等)管理の観点から、客観性と妥当性を担保しつつ、改善策を策定し、プレゼンテーションの仕方までを教授する。また、部署を超えた医療機関看護部組織の教育・研究・情報部門の管理について、履修生の希望にて1つを選択し、その改善計画策定までを学修する。さらに、自施設の地域における医療ニーズを客観的に捉え、看護としての「運営・経営」面への提言を行える能力を育成する。最後に「看護管理学」の実践者としての科学的・哲学的な資質の向上を図る。</p> <p>(7 伊藤收・10 土田幸子/5回)(共同)            医療機関内の教育・研究・情報部門の改善について、履修生からの意見を聞き、希望選択の1部門の選定を担う。また、選択した部門の部門の改善計画策定までの学修過程に関わる。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	看護学特別研究	<p>研究対象とした看護学領域における特定の研究課題を抽出し、それに関連した国内外の先行研究の文献検索を実施する。文献の精読、検討を通し、自分の研究課題を解決するための研究デザインを考え、研究計画書を作成する。研究開始にあたっては、倫理的問題に配慮しながらデータ収集・分析・結果をまとめる。論文構成は、序論、方法、結果、考察、看護実践への提言、結論とする。さらに研究の成果を公表する手段として、プレゼンテーションを実施し、他者からの評価を受ける。</p> <p>(2 濱中喜代) 出生前から思春期に至るまでの難病及び慢性疾患をもつ小児とその家族の看護について、倫理的な課題も含めて、先行研究をクリテックしたうえで、科学的根拠に基づいたケアの開発、看護実践やケアを提供するシステムの在り方について研究指導を行う。</p> <p>(3 勝野とわ子) 高齢期における成人を対象として、認知症者と介護家族へのケア、療養環境、がんや糖尿病などの慢性疾患患者へのケア、術後回復プロセスなどについて現象の理解から科学的根拠に基づくケア開発まで量的および質的研究方法を用いて諸課題解決へ向けた研究指導を行う。</p> <p>(4 江守陽子) 周産期のみならず思春期から成熟期、更年期へと変化する時期における健康リスクの高い女性あるいは健康問題を内在する女性とその家族を対象に、科学的根拠に基づいたケアの開発、看護実践やケアを提供するシステムの在り方について研究指導を行う。</p> <p>(5 菊池和子) 看護実践の理論的背景、看護援助の基盤となる看護技術に関する研究、緩和ケアを中心とするがん看護、エンドオブライフケア、ロゴセラピーに関する研究指導を行う。</p> <p>(6 岡田実) 精神科救急・急性期看護、地域移行に伴う多職種連携、精神科臨床全般に求められる危機管理、地域包括ケアにおける精神障害者の処遇、精神科看護実践の諸課題に関する理論と実践について研究指導を行う。</p> <p>(7 伊藤收) 医療機関において看護管理を担う立場にある人を対象に、その所属施設の看護管理・教育面での課題を明らかにすることや、改善につながる知を探索することで、所属施設の看護の質向上に資する研究指導を行う。</p> <p>(8 鈴木るり子) 東日本大震災被災地をフィールドに、発災直後から復旧・復興のプロセスを検証し、看護活動に必要とされる災害対策（防災・減災・復旧・復興）の理論と実践について研究指導を行う。</p> <p>(9 木内千晶) 高齢者と家族を対象とした老年看護に携わる看護職のモチベーションの構造やメンタルサポート、高齢者施設の課題や看護管理について研究指導を行う。</p> <p>(10 土田幸子) 医療機関において看護管理を担う立場にある人を対象に、その所属施設の看護管理・教育面での課題を明らかにすることや、改善につながる知を探索することで、所属施設の看護の質向上に資する研究指導補助を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科目	看護学特別研究	<p>(11 石井真紀子) 看護実践の理論的背景、看護援助の基盤となる看護技術に関する研究、緩和ケアを中心とするがん看護、エンドオブライフケア、ロゴセラピーに関する研究指導補助を行う。</p> <p>(12 長南幸恵) 精神科救急・急性期看護、地域移行に伴う多職種連携、精神科臨床全般に求められる危機管理、地域包括ケアにおける精神障害者の処遇、精神科看護実践の諸課題に関する理論と実践について研究指導補助を行う。</p> <p>(13 相澤出) 東日本大震災被災地をフィールドに、発災直後から復旧・復興のプロセスを検証し、看護活動に必要とされる災害対策（防災・減災・復旧・復興）の理論と実践について研究指導補助を行う。</p> <p>(14 下野純平) 重症心身障害児やNICU入院児をもつ親（特に父親）の役割と家族支援に関するテーマについて研究指導を行う。</p> <p>(15 大谷良子) 周産期のみならず思春期から成熟期、更年期へと変化する時期における健康リスクの高い女性あるいは健康問題を内在する女性とその家族を対象に、科学的根拠に基づいたケアの開発、看護実践やケアを提供するシステムの在り方について研究指導補助を行う。</p> <p>(16 佐藤恵) 周産期のみならず思春期から成熟期、更年期へと変化する時期における健康リスクの高い女性あるいは健康問題を内在する女性とその家族を対象に、科学的根拠に基づいたケアの開発、看護実践やケアを提供するシステムの在り方について研究指導補助を行う。</p>	

学校法人二戸学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
岩手保健医療大学			
看護学部看護学科	80	—	320
計	80	—	320

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の理由
岩手保健医療大学				
看護学部看護学科	80	—	320	
計	80	—	320	
岩手保健医療大学大学院				大学院の設置
看護学研究科看護学専攻(M)	3	—	6	(認可申請)
計	3	—	6	